

KPU NEWS



社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 216 Jan. 2024



2024(令和6)年 年頭のごあいさつ

理事長 木曾 誠一

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学の関係者の皆様方には健やかに新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

2020年1月15日に国内初めての感染者を出して以来、我々を苦しめてきた新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に移行されたことから長く続いた新型コロナウイルスによるパンデミックもようやく終息の目途が立ち、Withコロナのステージとなりました。本学もこれまでWeb授業の導入や実習の人数制限、クラブ活動の制限などを行うとともに大学でのPCR検査やワクチン接種の実施など様々な対策を講じてきました。その間、卒業式や入学式をはじめとする様々な行事の中止や延期なども行い、学生や教職員の皆様には多大なるご不便やご負担をお掛けしました。しかしながら、そのような環境下でも皆様方の大変なご努力のお陰で、感染者は出たものの、クラスターの発生もなく、この困難な状況を乗り切ることが出来ました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、私は昨年の薬事日報のインタビューの中で、「私学薬学トップの地位を固めて行きたい」とお話ししました。トップというのは偏差値の高さのみで表され

ると思いません。偏差値は入学時、入り口の話です。大学の力は入学してきた学生をいかに磨き上げるか、育てるかということです。すなわち、我々がどれだけ多くの優秀な薬学人財を社会に輩出できるか、それが京都薬科大学の力であり、大学の価値と言えます。そのため、我々は、大学のパフォーマンス評価の指標として、薬剤師国家試験の合格率、就職率、偏差値を掲げてきました。これらの指標は、我々の目指す、「優秀な人財を集め（偏差値の向上）、育て、優秀な薬学人財として（薬剤師国家試験の合格率の向上）社会に送り出し、様々な分野で健康を願う人々に貢献する（就職率の向上と就職内容の充実）」ことに繋がっていきます。本学はこれまでも高い国家試験合格率や就職率を示して来ましたが、それらをもっと向上させることにより、更に優秀な薬学を目指す人財が集まり、自ずと偏差値も向上します。そのことが更に優秀な薬学人財を輩出することに繋がります。そして、それらが好循環すれば、京都薬科大学は私学薬学のトップの地位を固めていけると信じています。

また、これまで我々は、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスの取れたファー

CONTENTS

■ ご挨拶

- 2024(令和6)年 年頭のごあいさつ 理事長 木曾 誠一…………… 1
- 新年にあたって 学長 赤路 健一…………… 2
- 新任のご挨拶…………… 3

■ 特集

- 2023年度京薬祭を終えて…………… 4

■ 報告

- 2024年度学校推薦型選抜結果…………… 12
- 薬用植物園の活動報告 Vol. 2…………… 16
- 受賞・掲載…………… 21
- 京都薬科大学奨学寄附金芳名録…………… 24

■ コラム

- 私の薦める、私の一冊…………… 9
- 事務局お仕事紹介…………… 10
- 卒業生からのメッセージ…………… 12
- 十人十色「声楽家と薬剤師を目指して」…………… 17
- 学生相談室だより…………… 20

■ イベント

- 2023年度 防災（避難）訓練を実施しました…………… 7
- 「関西3薬科大学合同オンライングループディスカッション対策セミナー」を開催しました… 14
- 「職種別仕事研究セミナー」PMDA編&生産技術職編を開催しました…………… 14

■ お知らせ

- 京薬会だより…………… 8
- Library News…………… 11
- 人事…………… 11
- 2023年度後期試験等日程…………… 13
- 単位互換制度～他大学の科目・講座を受けてみませんか～…………… 13
- 2023年度動物慰霊祭…………… 15
- 第109回薬剤師国家試験の概要…………… 16
- 生涯教育センターからのお知らせ…………… 18

マシスト・サイエンティストを育成することを掲げてきております。薬剤師となることは最重要項目ですが、さらに、研究者としてアカデミアや企業で活躍してもらえる人財も育てていきます。そのために、後にも述べます新校舎の建設などの環境の整備を進めていくとともに、卒業生の本学教官への積極的な登用も含めて、そのキャリア形成を後押ししていきたいと考えています。

その新校舎については、これまでC棟、D棟の2棟を建てるべく計画を進めて来ましたが、昨今の建築費の高騰などを勘案し、必要な機能、設備を網羅できるような形で一棟に集約し、建設する方向で検討を進めております。ホール的な機能も持つ大講義室や学習サポートセンターなど、学生の学習・研究環境をより向上できるものと期待しております。

これまでもお話してきた通り、本学の最も重要な財産の一つが卒業生の方々です。今年140周年を迎える長い歴史の中で24,000人もの卒業生を輩出し、その方々の活躍により本学のブランドは作り上げられてきたと言っても過言ではありません。その卒業生の集う京薬会との連携強化は大学にとって最も重要な課題であり、これからの本学のブランド向上に不可欠と考えています。京薬会と協同しながら、卒業生の方々へのリカレント教育、リスクリングなどの学びの機会の提供や同窓生が集う場の提供を通じて、自己研鑽やネットワーク作りをお手伝いしていきたいと考えております。

一方、倫理とコンプライアンスについては、折に触れてその大切さをお話し、遵守をお願いしています。医療に関わる大学として、倫理およびコンプライアンスについては他の大学にも増して厳しく臨まなければなりません。倫理やコンプライアンスなくしては、教育や研究も成り立ちません。どんなに優れた研究を行っても、どんなに良い講義ができたとしても、倫理やコンプライアンスが守られてなければ、意味をなしません。大学という教育・研究の場は倫理やコンプライアンスの上に成り立っていることを認識頂き、自らの言動を今一度確認頂きたいと思います。

今年の干支は甲辰（きのえたつ）。干支は十干十二支を略したもので、甲は十干の一番目で物事の始まりを意味し、辰は十二支の中で唯一の架空の生き物の龍を意味しています。そのため、甲と辰が合わさる甲辰の年は、「勢いよく、活気あふれる年」、「上昇の勢いがあり、成長していく年」とされています。

140周年の節目を迎えるこの年が京都薬科大学の新たな飛躍に向けた始まりの年となりますよう、皆さんとともにチャレンジを続け、京都薬科大学の発展と成長に取り組んで参りたいと思いますので、何卒これまで以上のご支援・ご協力をお願い致します。

最後となりましたが、今年が皆様にとって実り多き年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年にあたって

学長 赤路 健一

2020年から始まった新型コロナ感染もようやく少し落ち着きを見せ始め、街やお店に人が戻りつつあります。京都では多くの外国からのお客さんも目立つようになりました。見かけ上、パンデミック前の日常生活が戻りつつあることが体感できるようになってきました。本学でも、長く続いた入構制限や研究活動・課外活動の制限が基本的に撤廃されました。しかし、ウイルスがいなくなったわけでは決してありませんし、いつ新たな変異ウイルスが流行するかは全く予想できません。ヒトの英知とウイルスとの静かな闘いがこれからも続くと思われ、今後も注意が必要であることに変わりはありません。

一方、薬学を含めた医療界ではパンデミック前とは比較にならない急速なDX (digital transformation) が進み始め、日々の診断や遠隔地医療に取り入れられ始めています。パンデミックが引き金を引いたダイナミックな変化の動きです。大きく後戻りすることはおそらく無く、逆にどんどん変化が進化していくでしょう。これからの医療界で活躍できる薬剤師には、薬の調剤のみならずヒトでしかできない対人業務や情報管理に携わることが求められています。常に新しい動向に気を配り、医療人として

どのような貢献ができるのかを自分で考え行動に移せることが必要になります。もちろんこれまでもそうだったのですが、これからは変化のスピードが格段に速くなります。基本に忠実に、かつ変化に柔軟に、対処することが求められているのです。患者さんに直接かかわらない職種についても同じように大きな変化が起こっています。例えば、薬自体が低分子から中～高分子にシフトしています。新薬開発の概念そのものが変わりつつあるのです。したがって、薬の開発に続く治験や行政の役割にも変化が起こりつつあります。

本学では、このような大きな変化にも対応できる薬剤師育成に適したカリキュラム整備を進めてきました。2024年度から始まる新しい薬学モデルコアカリキュラムを基礎とする本学独自の新しいカリキュラムも、このような変化に対応できる人材育成を大きな目的の一つとして作り上げました。もちろん、6年での卒業と薬剤師国家試験合格が大前提ですが、ゆとりを持った多様な学びが可能になるカリキュラムを目指しています。将来の薬学を担う人材育成に向けた効果的で実践的な学習支援体制とそのアップデートも継続させます。そのためのカリキュラムのスリ

ム化と効率化、多様な教育に対応できる余地を確保することに努めています。これらの対応の基盤の一つとなるのが、新型コロナパンデミックを機に取り入れられた新しい通信方式を活用した多様な講義形式の利用です。ようやくコロナ感染がある程度落ち着いてきてキャンパスに賑わいが戻り、対面講義や課外活動を行えるようになりました。しかし、完全にパンデミック前の状態に戻ったわけではありません。それぞれの習熟度に応じたより効率的でわかりやすい講義になるように、Webをうまく取り入れた中継講義やオンデマンド講義などを利用できるようにしました。様々な情報交換についても、現実の距離を感じさせない新しい通信技術が活用されるようになってきました。対面での議論をより効率的に行える情報共有を、事前に素早く行えるようになったのです。これらの技術を効果的に使い、人間同士の対面でしか行えないコミュニケーションとはどのようなものなのか、そのために必要な教育をどのように行

うのか、が教職員にとってのこれからの大きな課題の一つです。

ややもすると現状維持に傾くのがヒトの性ですが、これからの医療界では対人業務の多様化やデジタル化が一気に進むと予想されています。これまでの常識に馴れるのではなく、少しでも今までの概念を変えていく工夫をしなければ周囲から取り残されてしまいます。ガラパゴス島は居心地がいいかもしれませんが、いつまでも周囲が配慮してくれる保証はどこにもありません。これからの薬学領域のリーダーを目指す皆さんにとって、新しい年が変化に満ちた実り多い1年になることを願っています。

本年が、学生・教職員の皆様にとって素晴らしい年になることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



事務局
企画・広報課

とみまつ なつき
事務員 富松 南月

2023年9月1日付で企画・広報課へ配属となりました。この場をお借りして皆様へご挨拶申し上げます。

前職は、金融機関の窓口業務に従事しており、入出金や振込等の事務、資産運用商品や保険商品のご提案業務に携わっておりました。

かねてより憧れていた教育業界に携われる機会を頂戴し、感謝の気持ちでいっぱいです。異業種からの転職であり、教育の知識も薬学の知識も全くなく配属初日は不安でいっぱいでしたが、今日まで優しく根気強く業務を教えてくださいました皆様のおかげで環境の変化にも段々と慣れてまいりました。

人と話すことがとても好きなので、皆様と色々な会話を楽しんでいきたいです。学生時代は軽音楽部に所属しており、今でも音楽が大好きなので趣味の話も是非聞いていただければ幸いです。業務につきましても、コミュニケーションを大切に一日でも早く貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



病態薬科学系
薬物治療学分野

はやし しゅうさく
准教授 林 周作

2023年10月1日付で薬物治療学分野の准教授として着任いたしました。私は、2004年に本学を卒業後、竹内孝治教授（現 本学名誉教授）、加藤伸一准教授（現 教授）のご指導の下、2009年に博士の学位を取得しました。その後、博士研究員を経て2010年より富山大学 和漢医薬学総合研究所に助教として加わり、門脇 真教授にご指導をいただき、消化管での慢

性炎症疾患に対する有用な新規治療戦略の創出を目指した病態薬理学研究に取り組んできました。また、この間に米国ミシガン大学で国際共同研究を実施する機会にも恵まれました。

十数年ぶりの母校に懐かしさを感じると同時に、私の学生時代からは新しいステージへと完全に移行した本学の更なる発展のため、私に何が出来るのかと考える日々期待に胸を膨らませております。薬理学領域でのオリジナリティの高い研究を行うと共に、多様な分野で国際的にも活躍できる人材の育成を目標にし、教育・研究に邁進する所存です。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願申し上げます。

2023年度京薬祭を終えて

2023年度の京薬祭は4年ぶりに完全復活となり、模擬店や一般客も入れたアーティストライブなど、コロナ禍で中止あるいは縮小となっていたイベントも行われました。開催にあたり、試行錯誤しながらこの京薬祭を作り上げた実行委員の学生の声をお届けします。

KPU_{NEWS} 編集委員長 藤原 洋一

Feature article.

もりざね みう

2023年度 京薬祭実行委員会 実行委員長 3年次生 森實 美羽

今年の京薬祭は11月4日(土)・5日(日)の2日間で、4年ぶりの模擬店、学外者の入場制限の撤廃、子供を対象とした企画の復活の3つに焦点を当て、コロナ禍を越えて完全復活することを目標に「Rebloom 振り返り京薬祭！」というテーマで開催させていただきました。何事もなく、無事に開催できたことを本当に嬉しく思います。

2日間は学生、大学関係者の方々だけでなく、多くの一般の方々にもご来場いただき、観覧用の椅子が埋まり、多くの方が立ち見でステージ企画を鑑賞するという状況や模擬店を楽しむ姿も見られました。想像よりもはるかに多い1700人もの方々に京薬祭に足を運んでいただけたこと、大変喜ばしく、実行委員会一同感謝しております。

今年度、たくさんものを復活させる中で、過去の資料が残っていないものも多々あり、実行委員みんなが試行錯誤をしつつ、自分たちで一から作り上げていきました。私は実行委員長として力不足な部分もあり、たくさん仲間たちに助けられました。その中で、一人では無力なところも、120人の実行委員がそれぞれ自分自身の役割を持って集まれば、こんなにも素敵なものを作り上げることができるということを学びました。私にとって本当に忘れられない京薬祭となりました。

来年度以降も今年度の改善点をもとにさらにパワーアップした京薬祭が戻ってきますので、みなさん楽しみにお待ちください。

最後に、今年度京薬祭の成功は、京薬会、教育後援会をはじめとする関係者の皆様、ご協賛いただきました企業の皆様、お世話になりました学生課、施設課の皆様、そして学祭を盛り上げてくださった多くの部活・サークル団体の皆様方の並々ならぬご尽力のおかげでございます。心より感謝申し上げます。



ステージ企画を鑑賞する一般の方々



1・2年次生が一丸となって作った垂れ幕

今年度、副実行委員長を務めた三宅です。今年度は一般の方の来場を可能としたため、地域の小学生や保護者の方に沢山来て頂きました。お越し下さいました皆様、誠にありがとうございました。

私は当日「薬大探検隊」と称し、地域の小学生を対象としたキャンパスツアーを担当しました。その場で参加可能なステージ企画やスタンプラリーで楽しめる縁日は大好評でした。特に、簡単な実験を通して自然の不思議を体験できる「こどもランド」は小学生にも人気で、薬学部ならではの企画を楽しんで頂けたと感じております。また、門の装飾やKPUオブジェの前では、親子で写真を撮り楽しんでおられる姿を拝見することができました。

私はこの2日間を通して、地域の方々に京都薬科大学に親しみを感じて頂くと同時に、京都薬科大学と地域の結びつきを一層深められる京薬祭になったのではないかと感じています。ご来場された方の楽しそうな笑顔を見ると、京薬祭実行委員会一同この2日間のために様々な準備を頑張ったと達成感に溢れました。昨年度の学内生だけの対面開催の改善点を取り入れつつ、今年度ならではの企画も考え、大変なこともありましたが、準備期間は委員とコミュニケーションをとりながら、京薬祭を盛り上げられるように頑張ってきたので、今年度も大きなミスなく無事に終わることができ、私自身安堵の気持ちでいっぱいです。そして、私たちの想像を超える賑わいとなり、この活動にやりがいを感じています。



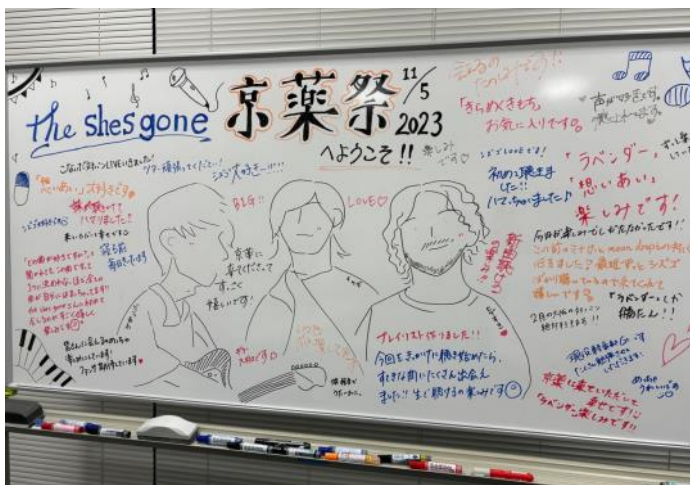
支えあった仲間たち

最後になりましたが、京薬祭を開催するにあたってご尽力頂きました全ての方に厚く御礼申し上げます。来年度以降も京薬祭が成功することをお祈り申し上げます。これからも京薬祭と実行委員会をどうぞよろしくお願い致します。

従来の姿を取り戻す

今年度は、模擬店の復活や一般の方の入場の再開などコロナ以前の学祭を取り戻すことを目標に頑張りました。残っていない資料も多い中で進めていくことは簡単ではありませんでした。私の主な仕事は、イベント会社の方と連絡を取り合い学祭を開催するにあたっての筋道を立てていくことでした。今年度の春から実行委員会は動き出しており、コロナ前の学祭を取り戻せるよう計画を進めていました。従来の学祭を知っている先輩も少なく、どのように進めていくことが適切なのかわからないまま不安はたくさんありました。しかし、自分たちで新しい方針を決めたり新しい企画を作り出したりすることで、より良い計画を立てられたのではないかと思います。幹部をはじめとした3年次生や2年次生の企画長などが一丸となり今年度の学祭を作り上げられたことは大変良い思い出となりました。

また、今年度のアーティストライブでは一般の来場者へのチケット販売という今までになかった試みを行いました。来場者数の予想は大変難しく、上手くいくかとても不安が大きかったです。結果として、来場者数の予想は大きく外れることなくアーティストライブは無事に成功でき安心しました。この新しい試みは来年度からの運営の参考になれば幸いです。



アーティストへの心のこもった寄せ書き



アーティストライブに集まる来場者

今年度の京葉祭開催にあたって、私は会計を務めさせていただきました。今年度は前年度から大きく変わり、一般の来場者の参加、模擬店の再開、渉内企画など先輩たちも経験したことのないものを作り上げて行くというプレッシャーの中で始まりました。予算案の作成から決算報告書を提出するまでが会計のメインの仕事で、領収書の返金を行うのも仕事の1つでした。そこで後輩や同級生との関わりを持つことで、お金を扱う重要な役職なのだと思えることができ、責任感を感じることができました。

コロナ禍を経ての開催ということもあってか、物価の高騰や人件費の増加など苦労することはありましたが、外部の来場者からアーティストライブのチケット代を頂いたり、模擬店の出店費を集めるなど試行錯誤しながら実行委員のみんなと協力して無事に文化祭を行えたことに達成感を感じています。当日来てくださった方々、模擬店を出店していただいた団体様、本当にありがとうございました。

ここまで読んでくださった方ならわかると思うのですが、僕は適当でいい加減な人間です。本来ならば会計なんて重大な役職を引き受けるべきではないと今でも思います。ですが、ここまでやって来れたのは単に周りの人間に支えられたからだけではなく、支えてくれる周りの人の為に頑張ろうと思えたからです。そう思わせてくれた人たちにはいくら感謝しても足りませんし、本当に恵まれたと感じます。一人一人が仕事をしただけではなく、みんなで一つになって作り上げた文化祭だからこそ最高のものになったと言い切れます。3年間実行委員で関わってくれた皆様、京葉祭を楽しんでくれた全ての方に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。



気が入った幹部たち

振り返り、そして次へ繋げる

この度は2023年度の京葉祭にお越しくださりありがとうございました。今年度の開催にあたり、私は書記を務めさせて頂きました。例年、書記の職務としては名簿の作成などの事務作業が多いのですが今年は、コロナ禍を越えて徐々に学外からのお客さんと呼んでの開催となったこともあり、書記の役職名にとどまらず様々な事柄に携わらせていただきました。特に模擬店、こどもランドに関しては、ここ数年、全く行っていなかった企画であったため、準備をほぼゼロの状態から始め、難題もいくつかありました。そんな不安を越えて、京葉祭当日ではお客さんから「こんなに楽しい企画を開催してくれてありがとう」などの感謝の言葉を頂くことができ、大盛況のまま最後までやりきることができたことは非常に達成感を感じることができました。ゼロから何かを作り上げるというこのような経験は自分にとってほぼ初めてのことで、非常にかけがえのないものになり本当に良かったです。

一方、準備段階では分からなかった改善点等が企画当日で明らかになりました。そのため、これらの改善点を今一度見直して、来年、企画に携わる後輩たちがより良いものを作り上げられるようにフィードバックを確実にして引き継いでいきたいと思います。改めて今年の京葉祭に関わって頂いた全ての方々に感謝申し上げます、本当にありがとうございました。

最後に、皆様がまた京葉祭に参加したいと思えるように私たち、実行委員会が来年に向けて一生懸命に取り組みますので期待を込めつつ、この先も京葉祭にお越しいただけたら幸いです。



幹部によるオープニング



こどもランドで交流を深める様子

今年度の京葉祭では、4年ぶりとなる模擬店が開催されました。4年ぶりの模擬店は見事に大盛況。多くの方から「模擬店本当に楽しかった！」との声をいただき、心から嬉しく思います。

模擬店委員長を担当することが決定したのは2023年の3月4日。4年ぶりであるため、模擬店を経験された先輩方がいない状態からのスタートでした。私自身、コロナウイルスの影響で模擬店を経験したことがなく、模擬店委員長として何を行えばいいのか分からない右往左往の日々でしたが、出店していただいた団体様をはじめ、大学の各課、消防署・衛生センター・業者の方々、実行委員の多大なるご尽力のおかげで京葉祭終了までやり遂げることができました。様々な苦難があったからこそ、模擬店が並び、多くの人で盛況している光景を見た時は、人一倍感動したことを覚えています。

模擬店で買った食べ物をみんなでシェアしながらステージ企画を鑑賞したり、出店していただいた団体メンバーの方たちが楽しそうに調理・販売していたり、そんな幸せな思い出となる京葉祭模擬店を来年、そして再来年と続くよう継承していきます。



模擬店を楽しむ人々

2023年度 防災（避難）訓練を実施しました

Event

施設課

2023年10月12日（木）、4年ぶりに全学生・全教職員を対象とした防災訓練を本校地で実施しました。今年度は避難訓練に加え、火災発見者による通報訓練や山科自衛消防隊訓練大会参加教職員による放水訓練、スマートフォン等を利用した安否確認システムによる安否確認訓練も実施しました。赤路学長からの講評では「本当に災害が起こった時にどのように避難すればよいのか、訓練を行っているかどうかで全く異なる。本日の経験を記憶にとどめ、いざという時に生かしてほしい」と訓練の意義と日頃の防災意識についての訓辞がありました。



本校地防災訓練の様子：中央庭園

また、訓練終了後には山科消防署のご協力のもと「煙体験」を初めて実施し、火災時の煙でどのくらい視界が奪われるのかを体験してもらいました。体験者からは「想像以上に何も見えず、本当の煙だったら全く前に進めないと思う。煙の恐ろしさを体験できた。」等の感想をいただきました。



本校地防災訓練後「煙体験」：
Q11セミナー室

南校地での防災訓練については11月7日（火）に南校地所属員全員で実施しました。避難経路については各所属内で事前に確認し、訓練に臨みました。山科消防署からの講評では、今回は創薬科学フロンティア研究センター1階で火災が発生した想定であり、棟内には薬品が多くあることから内階段ではなく外階段を使用すること、棟内からの最後の避難者は延焼を防ぐため扉を閉めること等のアドバイスがありました。

重要なことは事前準備をし、安全に避難することです。この記事を見られた皆さんは日常生活の中で研究室や講義室・実習室、実習先の施設等において、安全な避難経路や消火器具の確認等を行い、自身や周囲の方の身を守るようにしていただきたいと思います。



南校地防災訓練の様子：警備員室前

1 学生-OB・OG交流懇談会・ホームカミングデーを開催

季節外れの夏日となった11月5日（日）に京薬祭とコラボして学生-OB・OG交流懇談会（学生30名、OB・OG18名）、ホームカミングデー（93名）を開催し、多くの会員が参加しました。交流懇談会では在学生在がOB・OGと進路選択や職場の実情などについて小グループでディスカッションを行い卒業生からの貴重な体験談を聞くことができました。また、ホームカミングデーでは、京薬会創設80周年の記念にあたり、ミニ展示コーナーや木曾理事長、赤路学長、川井学生自治会長、平松会長から参加者へメッセージ、大学や京薬会の近況報告、基調講演および京薬会があらたに進める「キャリア支援事業の紹介」、合唱部（ユーベルコール）の学生および卒業生との学歌斉唱、学祭模擬店等の軽食を囲んだ懇親会など世代を超えて楽しいひと時の交流が行われました。



交流会の様子



ホームカミングデーでの学歌斉唱

2 歴史資料室だより

★歴史資料室が取材を受けました

10月16日に、横浜にお住まいの大坪覚氏が愛学躬行歴史資料室の取材に訪れました。大坪氏は、『KANSAI 大学博物館ガイド』（スペースシャワーネットワーク、2011年）や『東京のワクワクする大学博物館めぐり』（トゥーヴァージズ、2023年）などを刊行されている方で、今回は、『京都のワクワクする大学博物館めぐり』と題する書籍を刊行するにあたって、愛学躬行歴史資料室も掲載したいとのことで取材に來られました。当日は、大学の企画・広報課の山口貴課長も同席し、鈴木資料室長からの説明を聞いていただきました。

大坪氏によれば、京都の「大学博物館」を切り口とした大学紹介のガイドブックとのこと。予定どおり掲載書が刊行されましたら、またお知らせします。

★関東大震災直後における京都の薬剤師たちの救援活動

2023年9月1日は、関東大震災がおこってちょうど100年でした。震災直後に京都の薬剤師たちが救援に駆けつけました。その多くは、京薬出身の薬剤師たちで、京都の薬剤師界・薬業界において重要な役割を果たしていました。詳しくは、『愛学躬行歴史資料室長レター』No. 1に記しましたので、そちらをご覧ください。京薬会のサイトからダウンロードできます。

https://www.kpu-aa.com/kaishi_announce/infomation/7001/



★京薬会創設80周年のミニ展示

太平洋戦争のさなか、政府（文部省）からの指示によって同窓会組織の再編が事実上強制されたことにより、それまで在校生・卒業生の組織である薬窓会が分離・再編され、1943（昭和18）年4月10日、卒業生だけの京薬会が発足しました（在校生は学校報国団という戦時組織に編成）。今年は、それから80周年の節目にあたりますので、「戦時下の同窓会組織の再編と歴代会長のプロフィール」というミニ展示を11月5日のホームカミングデーをはさむ4日から7日にかけて愛学館東側エントランスにおいて設けました。

なお、ホームカミングデー当日には、卒業生の皆さんを中心に、31名の方々が資料室の見学に訪れました。

愛学躬行歴史資料室長 鈴木 栄樹

やすだ ひろゆき
薬物治療学分野 助教 安田 浩之
『Your Brain Is a Time Machine
脳と時間—神経科学と物理学で解き明かす』
ディーン・ブオノマーノ (原著) 村上 郁也 (訳)
森北出版 (2018年)

楽しい時間は過ぎていくのが早く感じますが、待ち時間や暇な時間は長く感じる場合があります。時間のスピードは一定のはずなのに、自身が感じる時間のスピードは状況によって異なり、こういった心的状況は皆さんも経験があると思います。しかし、なぜそう感じるかを具体的に考察したことはないでしょう。時間とは何か？本書は、この純粋な問いに対し、神経科学と物理学の観点から明らかにしていく内容となっています。



「タイムマシン」と聞いてまず思うのは、SF映画などでよく観る時間旅行のことだと思います。しかし、

「タイム・マシン」と区切れば、時間を様々に処理する装置と考えることができます。特に私が印象に残っている内容は、「脳は、時間を知ることができ、時間の知覚を生み出し、未来を予測するために過去を記憶し、その働きによって心的に時間を行き来することができる」です。脳は「タイム・マシン」であり、物理的な時間旅行はできないものの、ある種の「タイムマシン」と考えることができます。別の角度からになりますが、近年、生物の活動周期は地球の自転周期と同調しており、概日リズムと呼ばれています。生体内では、この概日リズムを司る時計遺伝子の転写や翻訳フィードバックが約24時間のリズムで生じています。概日リズムの破綻は、睡眠障害や高血圧の疾患を引き起こすだけでなく、薬剤の代謝などにも影響を及ぼす可能性があります。

このように、時間とは何か？という問いに対し、いくつもの答えが存在しますが、その全ては未だ解明されていません。時間とは、英語の最頻出名詞でありながら、知っているようで、明確な答えを誰も知らない身近にあるものです。時計の秒針を見て、見るタイミングによっては時が止まったかのように感じることもあるかと思います。このような当たり前と思う疑問を疑問のまま残すのではなく、内容は少し難しいですが、時間があるときに、時間を忘れて、「時間」を知るのはいかががでしょうか。

にしむら ひろよ
事務局 進路支援課 西村 裕世
『透明な地図』
原田宗典 著
東京FM出版 (1998年)
※現在は絶版

皆さんは、海外旅行は好きですか？

私がこの本に出合ったのはFM-TOKYOで放送されている「JET STREAM」という番組が関係します。番組のコンセプトは「パーソナリティを“機長”に見立て、異国情緒溢れる音楽と情感たっぷりのナレーションで、海外旅行の魅力をリスナーに伝える」こと。当時の機長は城達也さん。ちなみに現在は福山雅治さんです。



毎週金曜日に番組で、城さんが原田さんの書いたショートストーリーを読んでおられました。異国の地で遭遇するちょっと不思議な海にまつわる12の物語。この「透明な地図」を紹介された時、私はすぐに本屋に買いに行ったのを覚えています。山口昌弘さんの写真がとても綺麗で、色んな背景が浮かび余韻に浸れる写真集ともいえる本です。

私はその中でも「願いをひとつ」という物語が印象に残っています。ある男が、机に向かってしていると、背後に気配を感じました。そこにはウェットスーツを着て、酸素ボンベを背負ったずぶ濡れの人が立っていました。ビックリしたのは自分だけでなく、その謎の人も同じでした。なんとその人は昔の古い友人でした。お互いに不思議に思いながらも久々の再会を喜び合いました。男は、なぜここにいるのかを尋ねました。友人はサイパンの海でダイビング中にサメに遭遇し、隠れていたけど酸素が無くなりそうになり、苦しくなってきた。その時に死にたくない！と強く願ったら、なぜかココに立っている。と伝えました。

こんな不思議な話があるのかと思っていたところ、男が友人にある一言を伝えました。すると突然友人は忽然と消えてしまいました。夢かな？と思いましたが、部屋には水たまりが・・・。友人はどうなってしまったのでしょうか。

奇妙な体験、ゾクッとくる怖い話を集めており、ショートストーリーなのですぐに読める一冊です。この幻想的な本を読んで、海外気分をぜひ味わってください。

心を落ち着けて、静かな場所で読んでいただきたい作品です。現在は絶版となっていますが、『旅の短編集』で一部ご覧いただけます。

■ 第4弾 教務課・学生課

あけましておめでとうございます。本年もKPU^{NEWS}編集委員学生企画をどうぞよろしくお願いいたします。

ですが、私たち現編集委員がお仕事紹介を担当するのも今回1月号が最後です。ラストとなる今回、私たちが紹介するのは、教務課と学生課です。学生の皆さんが学校生活を送る中で一番関わる機会が多いのはこの2つの部署ではないでしょうか。しかし、皆さん、この2つの課の違いってきちんと分かりますか？(笑) 恥ずかしながら、私たちはあまりはっきりと違いが分からず、教務課と学生課の前をうろろろすることも…。大丈夫です！！この記事を読んでもらえれば、この2つの部署の共通点、相違点などがクリアになるとと思います！

では、まずこの2つの部署さんについて少しまとめてみましょう！



取材の様子

教務課		学生課	
	愛学館1F	場所	愛学館1F
	8人	担当者人数	10人 (医務室1人、学生相談室2人含む)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のカリキュラム ・配信授業の準備 ・試験登録、再試登録 etc. 	主な仕事内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の学生生活支援全般 ・部活動 ・奨学金 ・医務室、相談室 etc. 	
再試の時にきちんと手続きが行えているか否かを最終チェックしてくださっています！電話がかかってきたら出てくださいね(笑)	意外な仕事内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカーの管理 →暗証番号を忘れて開けられないって時の救世主です！ 	
<p><共通のモットー> 学生の皆さんが、より良い学生生活を送れるように！ 学生の期待に応えられるように！！</p>			

2つの部署の違いを少しはお伝え出来たでしょうか。両部署でお仕事されている方々は、皆さん優しく、学生が主体となり、学校生活がより良くなることを応援して下さる方ばかりです。実際に、食堂のメニューやコンビニ前の自販機など学生と事務の方々の双方の意見の賜物もあります！皆さん、気になったことや相談したいことがあれば、是非窓口を利用してみてください！！

最後に教務課と学生課のご担当者からメッセージをいただいたので、紹介します。

【教務課】

大学生生活をより良くする意見をどんどん下さい！双方が納得し、目指すべき方向を一緒に考えましょう！

【学生課】

大学にいる間は、社会に出る前の準備期間です。期限を守るなど社会に出て当たり前のことが出来るように“大学”という大人に守られている中で成長してください。私たちがサポートします！

図書館

今年度も教育後援会より図書をご寄贈いただきました。希望図書に係るアンケートによって、皆さんからいただいたリクエストを中心に、文芸書や一般教養に関する図書161冊が1階ブラウジングコーナーに並んでいます。今回は、複数の方よりご希望のあった『汝、星のごとく／風良 ゆう』をはじめ、直近の直木賞、芥川受賞作や新聞の書評コーナーでも紹介された『世界はシンプルなほど正しい―「オッカムの剃刀」はいかに今日の科学をつくったか／ジョンジョー・マクファデン』、貸出回数の多い旅行ガイド『COLOR+PLUS』シリーズなど、学習や研究に疲れた時、気分転換も兼ねて気軽に手に取れるラインナップとなっています。

寄贈図書の一覧は、“図書館ホームページ>資料案内>教育後援会寄贈図書>2023年度”からご覧いただけます。

(URL:<https://lib-opac.kyoto-phu.ac.jp/opac/category/5>)

たまにはゆったりと落ち着いて、本を読んでみませんか？皆様のご来館をお待ちしています！

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



教育後援会寄贈図書コーナー



NEWS 人事

採用

事務局企画・広報課

事務員 富松 南月
(2023.09.01付)

病態薬科学系薬物治療学分野 准教授 林 周作
(任期：2023.10.01～2028.09.30)

創薬科学系生薬学分野 准教授 中村 誠宏
生命薬科学系病態生理学分野

准教授 細木 誠之

基礎科学系一般教育分野 助教 朝比奈裕子
(以上任期：2023.10.01～2028.09.30)

配置換

事務局入試課

係長 佐原 和美
(前 事務局庶務課)

事務局庶務課

主事 奥村 亮
(前 事務局会計課)

事務局会計課

主事 清水 芳美
(前 事務局企画・広報課)
(以上2023.09.01付)

退職

事務局入試課

係長 樋口 文子
(2023.08.31付)

事務局実務・生涯教育課

課長 川勝 章広
(2023.09.30付)

再任

医療薬科学系臨床薬学分野 教授 西口 工司
(任期：2023.10.01～2028.09.30)

薬学教育系薬学教育研究センター

教授 細井 信造
(任期：2023.10.01～2026.03.31)



大学での研究と臨床を通して

さかい こうすけ

堺 香輔



2019年 博士課程修了
(薬剤学分野)

滋賀医科大学医学部附属病院
薬剤部 薬剤師

私は現在、滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部に勤務しています。業務内容は、調剤、抗癌剤調製、病棟業務等、様々な業務を兼任しております。当院では1年目から病棟業務に携わることができ、1年目は呼吸器内科・外科病棟、2～4年目は脳神経外科・眼科病棟、5年目の現在は救急・整形外科病棟を担当しております。

病棟で直接患者さんに接することで、非常に多くのことを学ぶことができます。例として、患者さんの訴えや病態の変化に応じて医師に処方提案をすることが多いのですが、同効薬の中からどの薬剤を選択するかを考えることが多いです。大学の授業や国家試験対策では、薬剤の作用機序を中心に学ぶことが多いと思います。しかし実臨床では、同効薬の中からエビデンスや病態を考慮した上で薬剤を選択する必要があります。ある疾患に対して、同効薬であればどの薬剤を選択しても同じ効果が得られるよう

な気がするかもしれませんが、実際には臨床試験の結果から推奨される薬剤が異なりますし、年齢や腎機能等も考慮した上で使用する薬剤を選択します。このように、薬効や添付文書の内容だけではなく、薬剤のADME、病態、エビデンスを理解する必要があります。

私は学部・大学院を通して基礎研究を行ってきました。一見、基礎研究と臨床はあまり関係が無いと感じる方もいるかもしれませんが。しかし実際は、多くの点で知識や経験が役立っております。私は薬剤学分野に所属していたため、製剤学的なことや薬物動態に関することを主に学んできました。現在、抗体医薬品やリポソーム化製剤、核酸医薬品といった新しい製剤が次々と承認されてきています。こうした薬剤は取り扱いや薬物動態が特徴的であることが多いです。私は大学の研究でこのような薬剤を実際に扱っていたため、薬剤の適正使用に貢献することができます。また、薬剤の相互作用にはトランスポーターを介したものが多く、そういった現象を理解する上でも薬物動態の知識は重要です。

病気や薬物のことを調べる際は書籍等を用いることが多いです。しかし、より詳しい内容を調べる際は論文を見る必要があります。臨床試験や臨床研究の論文を読むことも多いです。このように、研究室等で身に付けた知識や経験が、臨床現場で活かされることが多いと感じております。学生の皆さんも、研究室生活の中で様々なことを学び、将来に役立てていただければ幸いです。

2024年度学校推薦型選抜結果

Report

入試課

2024年度学校推薦型選抜の内、指定校制は2023年11月13日（月）に、一般公募制は11月18日（土）に実施され、12月1日（金）に合格発表が行われました。結果は右表のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制	50名	54名	54名
一般公募制	90名	260名	104名

2023年度後期の試験日程は下表のとおりです。

※スケジュールは変更になる可能性がありますので、必ず最新状況をmanabaでご確認ください。

【後期試験等日程表】

年次	試験	期間	合格発表	受験手続日
6	アドバンスト薬学 本試験	1月10日(水)・1月11日(木)	1月16日(火)～ Webによる公開	—
	アドバンスト薬学 再試験	1月25日(木)・1月26日(金)	卒業査定会 [2/14(水)] 後 予定※	1月16日(火)～1月18日(木)
4	後期試験	1月11日(木)～1月15日(月)	1月24日(水)～ Webによる公開	—
	後期再試験Ⅰ	2月5日(月)～2月7日(水)	2月16日(金)～ Webによる公開	1月24日(水)～1月28日(日)
	前期・後期再試験Ⅱ	2月22日(木)～3月1日(金)	進級査定会 [3/15(金)] 後 予定※	【前Ⅱ】1月24日(水)～1月28日(日) 【後Ⅱ】2月16日(金)～2月18日(日)
	OSCE本試験	2023年12月9日(土)・10日(日)	1月22日(月)9:00～ 1月24日(水)15:00	—
	OSCE追・再試験	3月7日(木)	進級査定会 [3/15(金)] 後 予定※	1月22日(月)9:00～ 1月24日(水)15:00
	CBT本試験	1月18日(木)・1月19日(金)	1月31日(水)14:00～ 2月2日(金)15:00	—
	CBT追・再試験	3月5日(火)	進級査定会 [3/15(金)] 後 予定※	1月31日(水)14:00～ 2月2日(金)15:00
1～3	後期試験	1月15日(月)～1月23日(火)	2月2日(金)～ Webによる公開	—
	後期再試験	2月22日(木)～3月1日(金)	進級査定会 [3/15(金)] 後 予定※	2月2日(金)～2月4日(日)

※詳細は決まり次第manabaでお知らせいたします。

【単位互換制度とは】

本学は公益財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換制度に参加しています。単位互換制度とは、大学コンソーシアム京都に参加している京都府内を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定される制度です。2023年度は加盟校から341科目が提供されました。

修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年科目は1科目4単位まで）を限度として、卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます。

他大学の授業を受講し、さらに学びを深めてみませんか？

なお、単位互換科目の取扱いについての詳細は、学生便覧並びにシラバスを参照して下さい。

【単位互換制度の魅力】

1. 講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されています。
2. 講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されています。
3. 講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がります。
4. 受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができます。
5. 全ての科目を無料で受講できます。ただし、科目によっては参考書・テキスト代等が必要な場合があります。

【受講方法】

3月上旬に大学コンソーシアム京都Webサイトにシラバスが掲載されます。前期・集中・後期科目とも3月中旬から出願受付が開始されますのでWeb上で登録・出願し、ダウンロードした出願票を教務課に提出して下さい。出願票の提出期限はmanabaで通知します。

<単位互換・京カレッジポータルサイト><https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>

上記URLからは科目開講時に休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。



「関西3薬科大学合同 オンライングループディスカッション対策セミナー」を開催しました

Event

進路支援課

10/16、11/16の2日間の日程で4・5年次生を対象に「関西3薬科大学合同オンライングループディスカッション対策セミナー」を開催しました。本プログラムは就職活動の本選考やインターンシップの選考でしばしば実施されるグループディスカッションの実践練習をおこなう機会を提供することを目的に、コロナ禍が始まった2020年度から4年連続で開催しているプログラムです。

本プログラムのメリットの一つは、外部講師から学生個々に対しておこなわれるフィードバックです。各グループに一人ずつ外部講師が付き、2回の議論の様子を観察しフィードバックを行います。また、取り組むテーマについては本学進路支援課内で「参加した学生に何を学び取ってほしいか」との観点から毎年協議のうえ決定しています。

今年度の参加学生数は87名でした。内訳を見ると、本学からは55名、大阪医科薬科大学から22名、神戸薬科大学から10名が参加しました。参加した学生からは「自覚のある反省点はもちろん、自分が気づけていなかった点についても指摘して下さった。また、他の人に対するフィードバックもとても適切でわかりやすかった」、「非常に抽象的で、定義付けの技量が試されるお題だと感じました。今後就活を進める上でも考えることの多いテーマであったため、非常に身になりました」、といった声がありました。他大学の学生に交じって緊張感のある練習から、参加者それぞれ気づきや学びが得られたのではないかと思います。

5年次生はこれから本格化する就職活動を通して出会う他大学の学生や社会人の方々をお手本に、他者との討論における自分なりの作法や立ち回り方を見出し構築していきましょう。4年次生の皆さんは、早い人で2月から実務実習が始まります。実習先の先生方の話し方や考え方、他者への働きかけ方といったスキルを観察し取り入れることを意識してみてください。



10月16日(月)

大学	16:00～17:30	18:00～19:30	計
京都薬科大学	16	21	37
大阪医科薬科大学	0	12	12
神戸薬科大学	2	4	6

11月16日(木)

大学	13:00～14:30	15:00～16:30	計
京都薬科大学	8	10	18
大阪医科薬科大学	6	4	10
神戸薬科大学	1	3	4

キャリア支援プログラム「職種別仕事研究セミナー」 PMDA編&生産技術職編を開催しました

Event

進路支援課

2023年11月7日(火)、10日(金)に、キャリア支援プログラム「職種別仕事研究セミナー」PMDA編と生産技術職編をそれぞれ開催しました。

11月7日(火)の「PMDA編」では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の現役職員の方を講師に招き、PMDAが担う業務やこれまで携わってこられたプロジェクトなどについて、ご講演いただきました。

PMDAは、医薬品や医療機器の日本での承認審査や安全対策を行う機関で、本学からは過去3年(2020～2022年度)で8人の卒業生が就職しています。

講演では、医薬品の承認審査の流れや製薬企業とのやりとりといった具体的な業務の説明だけでなく、仕事のやりがいや、薬の承認に向けてどのような思いで臨んでいるかなど、PMDA職員としての姿勢についても熱くお話しいただきました。

当日は6年次生を除くすべての学年と大学院生、計32名が参加しました。参加した学生からは「まだ1回生で薬のことはあまりわかっていないが、薬がどのような過程を辿って世に出されるか、審査という薬学部で学ぶことを活かせる仕事の内容を知ることができた」、「PMDAの仕事はデスクワークが多くて固いイメージがあったのですが今回のお話で企業と一緒に医薬品の承認を目指していくという言葉が印象に残りました。」といった声がありました。



「PMDA編」の様子

11月10日（金）の「生産技術職編」では、製薬企業の生産技術職に従事されている本学卒業生を講師に招き、特に品質管理部門の業務やご自身のこれまでのキャリアなどについてご講演いただきました。製薬企業の生産技術職については、研究職や開発職と同様に、本学からは毎年度コンスタントに卒業生を輩出しており、過去3年（2020～2022年度）で19人が就職しています。

講演では、品質管理部門の業務の流れや1日のスケジュールのほか、入社1～2年目、3～10年目、10年目以降の3つの期間に分けて、それぞれの段階で生産技術職として求められるスキルについて詳しく解説いただきました。また、学生時代に特に力を入れておくべきこととして、「研究活動の中で課題にぶつかったとき、先生や先輩・友人に相談しながら研究を進めていくという経験を通して、課題解決力を養うことが大切」とのアドバイスを送られました。その他、質疑応答では、入社後の異動希望の通りやすさや品質管理部門で働く方々の出身学部など、卒業生だからこそ聞ける質問にも率直にお答えいただき、参加した学生にとって細かな疑問や不安も解消できる貴重な機会となったようです。

当日は17名の学生の参加があり、受講後のアンケートでは、「ルーチン業務のイメージだったが、新製品の立ち上げなどの業務もあるということ、とても魅力的に感じた」、「品質管理職について、具体的なイメージや、薬学部の知識がどう活かせるのかについて、詳しく知ることができた」などの感想があり、生産技術職の新たな魅力や自分の能力を生かせるフィールドを認識できた様子が見られました。



「生産技術職編」の様子



積極的に質問する学生

この「仕事研究セミナー」は、様々な業種・職種に就かれている卒業生を講師に迎えて継続的に実施しており、次回は2月頃に「臨床開発職編」を開催する予定です。今回のPMDA編、生産技術職編には、ともに低年次生の参加もあり、将来の進路を考えるための情報収集として役立った、あるいは進路の選択肢として興味がわいたとの意見も多く見られました。進路選択のみならず、現時点で希望する業種、職種が異なる場合でも、薬に関わるあらゆる仕事の現状や実情を知っておくことで、就職活動時の志望動機を考えるきっかけにしたり、面接など選考対策にも生かすことができます。

学生の皆さんには、多様な領域で卒業生が活躍している本学ならではのこうしたイベントをぜひ積極的に活用し、自分自身の将来に役立てていただければと思います。

NEWS 2023年度動物慰霊祭

庶務課

10月30日（月）に、本校地の動物慰霊碑前において、2023年度動物慰霊祭を執り行いました。当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

木曾理事長、赤路学長、斎藤副学長、加藤バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

塩野義製薬(株) 油日植物園へ出張講義に行ってきました

塩野義製薬株式会社 油日植物園は、滋賀県甲賀市にある同社の油日研究センター内に設置されている薬用植物園で、環境問題や地域・社会貢献などの活動に取り組まれています。先日、甲賀市立油日小学校の3年生が薬草の学習のために油日植物園にやってくるということで、我々薬用植物園のスタッフも講師としてお招きいただき、ハッカやキキョウなどの薬草に関するミニ講義を行いました。小学生の純粋な視点からの質問や感想にはハッとさせられることもたくさんあり、大変良い刺激になりました。

※塩野義製薬株式会社 油日植物園は一般公開していません。

【薬用植物紹介】

ハッカ *Mentha arvensis* Linne var. *piperascens* Malinvaud

日本原産のシソ科の多年生草本。地上部を生薬「薄荷」として用いる。解熱・鎮痛などの効果があるとされ、加味逍遙散や防風通聖散などの漢方処方に配合される。ハッカの仲間はいわゆるミントと呼ばれ、多くはメントールをはじめとしたモノテルペン類を多く含む。ハッカから水蒸気蒸留によって得られたメントールを主要成分とした結晶であるハッカ脳は、かつての日本の重要な輸出品目であった。

【活動状況(2023年8月1日～11月30日)】

- ・学内見学 基礎演習科目 本園1件/御陵園1件
- ・学外見学 本園2件/御陵園3件
- ・漢方薬生薬認定薬剤師 研修会 本園1件

植物園のinstagramはこちらから
ご覧ください。



塩野義製薬(株) 油日植物園での講義の様子
(写真提供：塩野義製薬(株)
油日植物園 加藤保子様)



ハッカの開花期の地上部

NEWS 第109回薬剤師国家試験の概要

学生課

第109回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験日	2024年2月17日(土)及び同月18日(日)
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] ・薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 ・薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2024年3月19日(火曜日)午後2時に厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにその受験地及び受験番号を掲載して発表されるほか、合格者に対して合格証書が郵送されます。

*詳細は、厚生労働省ホームページ「第109回薬剤師国家試験の施行」をご参照ください。

KPU_{NEWS}では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

声楽家と薬剤師を目指して

薬品物理化学分野 3年次生 ひらい ななえ 平井 七瑛

私は生後6ヶ月の頃から“リトミック”を習い始めました。その後、歌へ移行し、中学校に入るタイミングで当時習っていた歌の先生から声楽を勧められ、本格的に始めました。中学3年生の時にコンクールに挑戦し、初挑戦ながら全国大会にまで進出することができ嬉しく思いました。高校生では、合唱部に入部してより多くの人とハーモニーを作り歌うことの喜びと楽しさを知りました。大学生になっても声楽を深めたいと思い、2回生の夏に2つのコンクールにエントリーし、2大会ともに全国大会まで出場することができました。



声楽とは、人間の声を主体にした音楽です。器楽とは違い、腹式呼吸を使って自分の身体が楽器となります。また、声楽は基本独唱ですが、アカペラで歌うのではなくピアノ伴奏と一緒に歌います。主に歌う曲はクラシックです。日本語歌曲は難しいとされており、初めはイタリア語歌曲を中心に次にドイツ語歌曲を習うことがセオリーとされています。例えば、「プッチーニ:歌劇『トゥーランドット』より誰も寝てはならぬ」が有名です。このアリアは2006年のトリノ五輪でフィギア・スケートの選手である荒川静香さんがフリー演目で使用し、見事金メダルを獲得されました。このように、私たちの生活に声楽は浸透しています。

声楽コンクールでは、名だたる声楽家数名が審査員をし、百点満点で採点を行い、その合計点で順位決定をされます。一定の評価基準があるようですが、受験者には明かされておらず、1回限りの歌唱で全て決まります。順位発表の時に結果と共に先生方直筆の講評をもらえます。しかし、審査員の方によって評価の基準はそれぞれであるため絶対的な評価は得にくいという難点があります。その講評を参考にして次の大会に向けて練習を行い、自己研鑽に励みます。

大学生になってからのコンクールは高校生の頃とは全く違いました。一番苦労したのは伴奏者さん探しで

す。音大生との接点は少なく、ましてや伴奏をお願いするとなると困難を極めます。そのため、色んな方に連絡を取り、伴奏をお願いし、伴奏合わせの日程調整、防音室の予約まで一人で行い苦労しました。声楽は伴奏者さんと呼吸を合わせるのが重要であると感じています。そのため、自分が曲に対して感じていることを正確に伝えることが鍵となってきます。実際に歌ってみて伴奏とすり合わせていく、言葉では表しきれない意思疎通ができたのではないかと感じています。

実は、常に音楽のある生活を送っていく中で音楽高校や音楽大学に進学しようか、と悩んだこともありました。両親は京都薬科大学出身で、大学生活の楽しさや薬剤師という仕事のやりがいについて教えてくれました。そのため、京都薬科大学に入学し薬剤師になることを目標にしました。入学後ももちろん、声楽も続けたいので、現在は学業と両立できるよう時間の使い方を工夫し、月に1度は声楽の先生に指導を仰ぎ学んでいます。

今の目標は、声楽を通して学んだ音楽の力をもとに、コミュニケーションを取りながら寄り添うということを薬剤師の仕事に活かしていきたいと思っています。声楽も薬剤師も生涯学んでいくという共通点があるため、これからも楽しみです。

環境が変わっていく中で、今まで続けてきたことを同じように続けるということは簡単ではないと思います。家族や声楽の先生に限らず多くの人にたくさん助けられながら私は今も声楽を続けることができています。これからも今の環境に感謝しながら目標を見失わないようまっすぐな気持ちで自分の道を切り拓いていきたいです。



■2024年度生涯研修プログラム 概要

本学生涯教育センターは、薬剤師の資質向上のため、在学中から卒業後まで一貫したシームレスな生涯学習の機会を提供しています。2024年度の卒後教育講座は、がん治療にかかわる多職種の視点や、ミトコンドリアに着目した糖尿病をテーマにした講義を盛り込みました。また、eラーニング講座は、複数の申込コースから選択していただけます。皆様のご参加・お問合せをお待ちしています。

本学学生は聴講無料ですので、ふるってご参加ください（参加方法は2月以降manabaに掲載します）。

卒後教育講座

病態や疾患の理解を深め、
一歩進んだ介入ができる薬剤師を目指して

2024年度の卒後教育講座は、悪性腫瘍に関する多職種の講義や、ミトコンドリアに着目した糖尿病をテーマにした講義を盛り込みました。オンラインでの受講も可能です。

開催日	9:30-11:00	11:15~12:45	14:00~15:30
2024年 5/19 (日)	感染症治療の基本的な考え方	女性の健康と薬剤師のかかわり(仮)	
2024年 6/16 (日)	がん治療の変遷～胃がん外科医が経験してきたこと～(仮)	がん薬物療法を受ける患者の自分らしく過ごすをどう支えるか～薬剤師と看護師の協働～	がん薬物療法における薬剤師の役割～過去、現在、そしてこれから～
2024年 7/21 (日)	ミトコンドリア/ATPシグナルと2型糖尿病	ミトコンドリアと糖尿病治療戦略	
2024年 8/25 (日)	CKD診療とくすり	薬剤師が取り組む！薬剤性腎症を予防する取り組み	小児医療と薬剤師のかかわり

- 場所: 京都薬科大学愛学館A31講義室 および オンライン配信
- 定員: 200名(対面) ■研修単位(G24): 計10単位
- 参加費: 12,500円
- 申込受付期間: 2024年3月1日(金)～5月6日(月)

漢方講座

漢方治療の臨床力を身につけよう

京都漢方研究会との共催で、漢方治療の基礎から臨床実践まで4回コースで学びます。漢方の知識や経験の少ない薬剤師にも理解しやすいプログラムです。オンラインでの受講も可能です。

- 日程: 2024年9月8日(日)、10月20日(日)、11月10日(日)、12月8日(日) 10:00～16:00
- 場所: 京都薬科大学愛学館A31講義室 および オンライン配信
- 定員: 100名(対面) ■研修単位(G24): 計12単位
- 参加費: 20,500円
- 申込受付期間: 2024年7月10日(水)～8月26日(月)

eラーニング講座

時間と場所に縛られないマイペース受講

本年度の卒後教育講座と漢方講座をオンデマンド配信します。2023年度卒後教育講座と漢方講座も再配信します。配信期間中、何時でも何度でも視聴できます。ご自身のニーズに合ったコースにお申込みください。

		配信数 (G24単位)	参加費
①全視聴コース	2024年度卒後教育講座・漢方講座の収録動画を順次配信、2023年度卒後教育講座・漢方講座を再配信	44	30,500円
②当年度コース	2024年度卒後教育講座・漢方講座の収録動画を順次配信	22	22,500円
③卒後コース	2024年度卒後教育講座の収録動画を順次配信 2023年度卒後教育講座を再配信	20	20,500円
④漢方コース	2024年度漢方講座の収録動画を順次配信 2023年度漢方講座を再配信	24	24,500円

- 配信期間: 2024年6月1日(土)～2025年2月28日(金)
- 申込受付期間: 2024年4月1日(月)～2025年2月24日(月)

臨床推論ステップアップ講座

<入門編>

処方提案に必要な情報収集に役立つフィジカルアセスメント
～多職種共通言語を活用して患者状態や家族背景を把握しよう～

実症例を用いて問診、検査から診断、治療の考え方を学び、医師の処方設計の過程を理解することにより、薬剤師として、安全で最適な薬物治療を目指した、よりの確な処方提案を可能とします。事後、講義部分の動画配信で復習の機会を設けました。

※フィジカルアセスメント講座<入門コース>を名称変更しました。

2024年 4/14(日) 10:00～ 16:00	1.フィジカルアセスメント総論 医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメント目的を知ろう 2.疾病の基礎 患者が示すバイタルサインと症候から処方提案をしてみよう
-------------------------------------	---

※事後、講義部分をオンデマンド配信します。
当日欠席した場合は、事後視聴で2単位配付します。

- 場所: 京都薬科大学愛学館A31講義室 および オンライン配信
- 定員: 100名(対面) ■研修単位(G24): 3単位
- 参加費: 6,500円
- 申込受付期間: 2024年2月14日(水)～4月1日(月)

臨床推論ステップアップ講座

<実践編>

バイタルサイン収集やアセスメントの実技実習による手技習得に留まらず、測定結果をどう評価し、患者にどう活かすかを主眼においたプログラムです。

※フィジカルアセスメント講座<実践コース>を名称変更しました。

2024年 4/28(日) 10:00～ 16:30	1.(講義・実習) バイタルサイン情報収集スキル習得 2.(ランチョンミーティング) ※軽食付き 3.(講義・SGD) 症例検討を行うにあたっての基礎知識 症例検討の実践(フィジコを用いた実習) 4.(実例紹介) 病院薬剤師、薬局薬剤師の実例紹介に基づく ディスカッション、情報共有
-------------------------------------	--

- 場所: 京都薬科大学臨床薬学教育研究センター
- 定員: 20名(薬剤師限定) ■研修単位(G24): 3.5単位
- 参加費: 10,500円
- 申込受付期間: 2024年2月14日(水)～4月15日(月)

実務支援セミナー

注射薬の無菌混合調製～がん化学療法と在宅医療～

注射薬調製に必要な基本的知識と、輸液・TPNの混合調製手技等を実習します。さらに、がん化学療法の実際、注射薬の安全管理上の注意や投薬後フォローの重要性など一歩踏み込んで考えます。

同日に2回開催しますので、ご都合のよい時間帯をお選びください。

動画の 事前視聴	1.(導入講義) 注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識、 がん外来化学療法の実際
2025年 2/23(日) 9:30～ 13:00 または 13:30～ 17:00	2.(実技実習) 衛生的手洗い、手指消毒、帽子・マスク・手袋・ ガウンの装着、注射薬混合調製(アンブル、バイアル の取扱い、薬液採取、陰圧操作)、配合変化の実態、 高カロリー輸液混合調製 3.(情報共有・講評) 事前動画や実技実習に対する質疑応答、 自施設における注射調剤の問題点や課題の共有

- 場所: 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター
- 定員: 午前・午後 各20名(薬剤師限定)
- 研修単位(G24): 3単位 ※講義動画の事前eラーニング1単位含
- 参加費: 10,500円
- 申込受付期間: 2024年12月4日(水)～2025年2月10日(月)

■2024年度生涯研修プログラム申込受付のお知らせ

2024年2月14日(水)から「臨床推論ステップアップ講座<入門編>・<実践編>」、2024年3月1日(金)から「卒後教育講座」の申込受付を開始します。



◇臨床推論ステップアップ講座<入門編> ※本学学生・教職員無料

開催日時:2024年4月14日(日) 10:00~16:00 ※事後、講義部分のオンデマンド配信あり
開催場所:京都薬科大学 愛学館3階A31講義室及びオンライン配信
定員:対面100名 参加費:6,500円 認定単位:G24 3単位
申込受付期間:2024年2月14日(水)~4月1日(月)



◇臨床推論ステップアップ講座<実践編> ※薬剤師限定

開催日時:2024年4月28日(日) 10:00~16:30
開催場所:京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター2階
定員:20名 参加費:10,500円 認定単位:G24 3.5単位
申込受付期間:2024年2月14日(水)~4月15日(月)
※申込受付期間終了後、定員に空きがあれば学内(大学院生、教職員)からの参加を受けつけます。



◇卒後教育講座 ※本学学生・教職員無料

病態や疾患の理解を深め、一歩進んだ介入ができる薬剤師を目指して

開催日程:2024年5月19日(日)、6月16日(日)、7月21日(日)、8月25日(日)
5月・7月 9:30~13:00 / 6月・8月 9:30~15:45

場所:京都薬科大学 愛学館3階A31講義室およびオンライン配信
定員:対面200名(予定) 参加費:12,500円 認定単位:G24 計10単位(1単位/演題)
申込受付期間:2024年3月1日(金)~5月6日(月)

■申込方法 生涯教育センターホームページよりお申込みください。 <https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>



2024臨床推論ステップアップ講座
<入門編>申込ページ



2024臨床推論ステップアップ講座
<実践編>申込ページ



2024卒後教育講座申込
ページ



生涯教育センター
トップページ

■お問合せ先:京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課
TEL:075-595-4677 FAX:075-595-4792
E-mail:s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

2024年度申込受付中!!

京都薬科大学 履修証明プログラム
(専門・認定薬剤師資格 取得支援)

Lehmannプログラム

社会人向けリカレント教育プログラム(1年コース)です。

- ★専門・認定薬剤師資格取得サポート
- ★将来の薬学領域におけるリーダー育成
- ★少人数担当制(2,3名に1名の指導教員)によるきめ細かな指導

〈京都薬科大学ホームページ
Lehmannプログラム〉



■ 心身の不調には早目の対処を

2024年の幕開けです。昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類となって以降、各種のイベント等で人と人とが顔を合わせ、密にコミュニケーションを取る機会がますます増えていきました。

11月の京楽祭でも、出店あり、学外の方たちも参加OKというコロナ禍以前の形式へと戻っています。そのように、コロナ禍以前の環境に戻していくという動きが、学内外で起きているわけですが、果たして、みなさんはその動きをどのように受け止めているのでしょうか。

そもそも日々の生活の中でゆるやかに起きている変化が、人のところにどのように影響を与えているのかについては、はっきりと見えるものではないので、実感しづらいところはあるかと思えます。

ただ、対面場面が増えてきているこの状況は、人と会う場面が苦痛ではなく、むしろ好むという人にとっては歓迎すべき流れではあるかと思いますが、人と会うこと、コミュニケーションを取る事に疲労感を感じやすい人としては、知らず知らずのうちにストレスを溜めてしまっているかもしれません。また、対面授業、実習、課外活動、アルバイト、趣味、遊び等、学生生活を送る上での、活動内容や、活動量が増えてきていることによるストレスもまた、じわじわと積み重なっているかもしれません。

ストレス過多は心身の不調へとつながってしまうので注意が必要です。健康維持のためには自分の状態を把握し、早期に対処し悪化を防ぐことが一番大切です。

例えば、しっかり睡眠や食事は摂れていますか？生活リズムを保っていますか？人疲れしてしまった時にはひとりでマイペースに過ごす時間を確保していますか？義務から離れてリフレッシュする時間を持つことはできていますか？詰め込み過ぎないようスケジュール管理はできていますか？

新たな年を迎えるにあたり、目標を立てている人もいます。何を成し遂げるにもまずは、身体とこころの健康を保つことが不可欠です。自分がどんな状態にいるのかということに気を付けながら、なんだかちょっとおかしいな？と感じたら、そのまま放っておかずできるだけ早目に何らかの対処を心掛けてみてくださいね。

そのためにも、困った時にはひとりで抱え込むことなく、ぜひ周囲の信頼できる人に相談してみてください。学生相談室に来てもらうのもその一つの方法だと思います。抱えている問題に対して、直接的な答えを出せる場所ではありませんし、時には解決までに時間がかかることもあります。例えば、強いストレスを自覚しているときには、ストレス対処について考えたり、落ち込んだり、不安定になっている時には、陥りがちな悪循環な思考ループからの抜け出し方や、視野を広げるための工夫等を一緒に考えたりといったお手伝いはできる場所です。ご利用お待ちしております。

(臨床心理士 上野みな子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先 学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

◇開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15

◇電話：075-595-4672（建部）／075-595-4686（上野）

◇メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

申込フォーム：<https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/support.html>



■ 細胞生物学分野の山田倫暉さんが第17回細菌学若手コロッセウムにおいて優秀賞を受賞しました

2023年8月17日（木）に開催された第17回細菌学若手コロッセウムにおいて、細胞生物学分野の山田倫暉さんが優秀賞を受賞しました。

受賞：細胞生物学 博士課程3年次生 山田 倫暉

演題：Acinetobacter baumannii の二成分制御系 PmrAB レギュロンとその応答因子の解明

演者：山田倫暉¹、鴨志田剛²、山口大貴²、藤室雅弘¹、八尋錦之助²

(¹京都薬科大学 細胞生物学分野、²京都薬科大学 微生物・感染制御学分野)



■ 細胞生物学の祝迫佑紀さんが第35回微生物シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞しました

2023年9月1日（金）・2日（土）に開催された第35回微生物シンポジウムにおいて、細胞生物学分野の祝迫佑紀さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：細胞生物学分野 博士課程3年次生 祝迫 佑紀

演題：KSHV ORF7・ORF29・ORF67.5はターミナーゼ複合体機能に重要である

演者：祝迫佑紀¹、渡部匡史²、鈴木陽一³、中野隆史³、藤室雅弘¹

(¹京都薬大、²琉球大医、³大医薬大医)



■ 薬物治療学分野の山口大貴さんが第35回微生物シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞しました

2023年9月1日（金）・2日（土）に開催された第35回微生物シンポジウムにおいて、薬物治療学分野の山口大貴さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞：薬物治療学分野 博士課程3年次生 山口 大貴

演題：近赤外発光による高感度 in vivo イメージングで細菌性肺炎時の定着菌を可視化する

演者：山口大貴¹、鴨志田剛¹、川久保駿¹、田中廉汰朗¹、奥田絢音¹、北田昇雄²、森屋亮平³、中野竜一⁴、矢野寿一⁴、牧昌次郎²、八尋錦之助¹、加藤伸一¹

(¹京都薬科大学、²電気通信大学、³日本女子大学、⁴奈良県立医科大学)



■ 公衆衛生学分野の松本崇宏助教が日本生薬学会 第69回年会において学術奨励賞を受賞しました

2023年9月9日（土）に開催された日本生薬学会 第69回年会にて、公衆衛生学分野の松本崇宏助教が学術奨励賞を受賞しました。

受賞：公衆衛生学分野 助教 松本 崇宏

演題：薬剤抵抗性がん細胞の駆逐に寄与する天然由来新規医薬品シーズの探索

演者：松本 崇宏



■ 生化学分野の研究発表が日本ハイパーサーミア学会第40回大会において優秀ポスター賞を受賞しました

2023年9月8日（金）・9日（土）に開催された日本ハイパーサーミア学会第40回大会において、生化学分野の太田咲希さん（2021年度卒）の筆頭著者論文の内容を責任著者である齊藤助教が発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞：生化学分野 助教 齊藤 洋平

演題：温度の違いが紡錘体形成チェックポイントに及ぼす影響

演者：太田咲希、田中優衣、安武隆司、池田有紀、幸龍三郎、中山祐治、齊藤洋平（発表者）



論文は以下URLよりご覧ください。

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0014482723002197?via%3Dihub>



■ 本学の学生10名が「第73回日本薬学会関西支部総会・大会」において優秀発表賞を受賞しました

2023年10月14日（土）に開催された「第73回日本薬学会関西支部総会・大会」において、本学の学生10名が優秀発表賞を受賞しました。

【優秀口頭発表賞】

受賞：細胞生物学分野 博士課程3年次生 祝迫 佑紀
演題：KSHV ターミナーゼ複合体は子孫ウイルス産生に必須である
演者：祝迫佑紀¹、渡部匡史²、鈴木陽一³、中野隆史³、藤室雅弘¹（¹京都薬大、²琉球大医、³大医薬大医）

受賞：薬品製造学分野 博士課程4年次生 大田 海斗
演題：N-トリエチレングリコール含有アルキル-3-チオフェンカルボキサミド誘導体の合成と膠芽腫に対する生物活性の評価
演者：大田海斗、飯居宏美、茂山千愛美、安藤翔太、岩崎宏樹、南部寿則、中田 晋、小島直人

受賞：薬剤学分野 6年次生 安富 彰一龍
演題：腎臓虚血再灌流時におけるセリン修飾高分子キャリアの腎臓移行性と抗酸化剤の腎臓ターゲティングによる腎臓障害抑制効果
演者：安富彰一龍、勝見英正、木村 葉、辰己日向子、松浦 悟、森下将輝、山本 昌

【優秀ポスター発表賞】

受賞：薬化学分野 4年次生 大霜 彩乃
演題：α位に芳香環を有するニトロキシラジカルの合成と触媒活性評価
演者：大霜彩乃、浜田翔平、松田彩花、古賀貴裕、阪本圭織、小林祐輔、古田 巧

受賞：生化学分野 4年次生 定仙 大志
演題：Aurora B阻害剤によるv-Src発現細胞の細胞死誘導機構の解析
演者：定仙大志、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：生化学分野 5年次生 村田 真優
演題：TNK2 阻害による染色体分配の異常
演者：村田真優、太田稜子、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：生化学分野 5年次生 柳田 さくら
演題：アミノ酸トランスポーターLAT1 はアミノ酸輸送阻害非感受性の分裂支持機構を有する
演者：柳田さくら、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：生化学分野 5年次生 道盛 里和
演題：メチル化 RNA 読み取りタンパク質 YTHDC1 による分裂制御機構の解明
演者：道盛里和、幸龍三郎、齊藤洋平、中山祐治

受賞：細胞生物学分野 5年次生 堀田 真梨
演題：B型肝炎ウイルス様粒子を用いた肝細胞特異的送達能の評価
演者：堀田真梨¹、布藤愛望¹、酒井智帆¹、祝迫佑紀¹、関根勇一¹、上田啓次²、藤室雅弘¹
（¹京都薬大、²阪大医）

受賞：細胞生物学分野 4年次生 高田 まり菜
演題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスがコードするプライマーゼ関連因子(PAF)の機能解析
演者：高田まり菜、祝迫佑紀、藤室雅弘

■ シナジーラボの原田考輝さんが第64回日本組織細胞化学会総会・学術集会においてO-ポスター発表・最優秀賞を受賞しました

2023年10月20日（金）～21日（土）に開催された第64回日本組織細胞化学会総会・学術集会において、シナジーラボの原田考輝さんがO-ポスター発表・最優秀賞を受賞しました。

受賞：シナジーラボ 博士課程2年次生 原田 考輝
演題：ミクログリア様細胞を含む脳オルガノイド作製とアルツハイマー病病態解析への応用
演者：原田考輝、西村周泰、山田志歩、岩崎良太、安藤ももな、高田和幸



■ 京都橘大学と京都薬科大学が共同開催している公開講座「京のやくたちばなし」について、京都新聞に掲載されました

京都橘大学と京都薬科大学が共同開催している公開講座「京のやくたちばなし」について、京都新聞（2023年8月22日）に掲載されました。



■ 木曾理事長の取材記事が薬事日報に掲載されました

木曾理事長の取材記事が薬事日報（2023年11月1日）に掲載されました。



掲載記事については本学ホームページよりご覧いただけます。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。
- * 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2023年9月～2023年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（五十音順） ＞

稲垣 美幸	高越 清昭
大原 松雄	中森 省吾
進藤 広彦	

＜ 卒業50周年記念募金（昭和49年卒業生） ＞

安藤 美保	岡田みどり	萩原 忠幸
井岡 万純	川崎 眞子	原 陽子
石原ゆき子	木野 光雄	前川由美子
石丸 安徳	近藤 守	三島 一光
岩崎 修久	櫻木 健司	山口 正之
梅田 昭子	鈴木やよい	吉岡 京
榎本 律子	袖岡 茂徳	
岡田登志子	高橋 千恵	

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順） ＞

赤路 健一（学長）	太田 俊作（名誉教授）
-----------	-------------

（2023年11月30日現在）

■ ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。
引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。 <https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/contribution/>

